

大阪の駄菓子屋を舞台に繰り広げられる、

島根県委託事業・みんなで学ぶ人権事業

居場所を失った子供たちと店主の母娘の人情ドキュメンタリー

駄菓子屋 風和里

スティックビル5F
504講義室

11/5 (日)
しまくとりと
馬太菓子のおいしえ

田中健太 第一回監督作品

上映時間

11:00~12:15

14:00~15:15

講演：一緒にあそぶ・まなぶ

吾郷雄二さん 12:20~13:00

子どもの居場所 フリーダス 代表 15:20~16:00

◆ 全上映・講演 要約筆記付

一般 当日500円 介助者1名・18歳以下 無料

問い合わせ 090-3372-5685(阪本)



〈イントロダクション〉

「人間が生きている意味は人間関係の中にある」精神科医のハリー・スタック・サリヴァンはそう言いました。不登校、ひきこもり、イジメなど、昨今の子供たちを取り巻く環境は厳しさを増している。それらの問題の背景には地域社会、学校、そして家族の崩壊がある。そんな社会の歪みを一身に背負う子供達。そんな彼らと向き合うのは、親でも、先生でもない。駄菓子屋のおばちゃん。この映画は一種の駆け込み寺となった「風和里（ふわり）」で明美さんたちが通ってくる子供たちを、まるで自分の息子のように接し、懸命に向きあう姿と、決して順調とは言えなくても、必死に前を向いて歩もうと、もがく子供たちの姿があります。今の社会は何か大事なものを捨て去ろうとしているのではないか？ 風和里での日常はやさしく観るものに問いかける。



〈ストーリー〉

大阪府富田林市。学校終わりの子供たちの元気な声が溢れる、小さな駄菓子屋「風和里（ふわり）」そこは松本明美さんとその娘よしえさんが営んでいる。そんな「風和里」に通う子供たちの中には親の離婚やネグレクトなどの家族の問題や学校でのイジメなどに悩み、居場所を求めてやってくる子供たちが少なくない。そんな子供たちを時に厳しく叱り、また時にはまるでお母さんのように優しく接する明美さんとよしえさん。そんな明美さんたちと子供たちとの涙あり、笑いありの交流と成長を描いたドキュメンタリー。

公式ウェブサイト：<http://www.bokutodagashinoie.com>

 @bokutodagashi  @bokutodagashinoie

〈プロフィール〉

監督・撮影・編集 田中 健太 (たなか けんた)

1993年3月14日生まれ。

高校時代から映画監督を志し、8ミリフィルムで短編映画を制作。

その後、大阪芸術大学に入学し、映画製作を学ぶ。

本作が劇場公開デビュー作。

監督・撮影・編集：田中健太 制作指導：原一男 小林佐智子
 整音：中村未来 平木篤 音楽：角田健輔 制作：大内雅人
 フライヤーデザイン：大上健人 杉原さや 予告編制作：中島丈晴
 HP 作成：小川泰寛 タイトル制作：今西健 小川泰寛 宮崎祐介
 撮影応援：賀村航大 古賀春花 徳永慶生 中村未来
 夏梅北斗 藤原貴大 樹田詢平 阿部周一
 制作応援：小川泰寛
 撮影協力：大阪芸術大学研究室 松屋町商店街の皆様 たなかのからあげ きしたこ
 主題歌 ばばろあ「風和里の唄」
 BD/74分 / カラー /16:9/5.1ch/2015年 / 日本

主催 | わ・わ・わの会 (和と輪と羽の会)

共催 | 部落解放同盟島根県連合会女性部 / 子どもの居場所・フリーダス

後援 | 松江市 / 松江市教育委員会 / 朝日新聞松江総局 / 山陰中央新報社 / 島根日日新聞社 / 毎日新聞松江支局 / 読売新聞松江支局